

のデータ提供を中止。その2年後の2002年、JSTでの医中誌基本データベースの使用が終了となる。2000年4月より、待ちに待った、医中誌Webのサービスが開始となる。代理店にサンメディアが加わり、4社での展開となる。同年11月、日本電子計算より、医中誌@infostreamとして、サービスが開始され、2001年(平成13年)、3月、第4回医中誌ユーザー会を開催。内容は医中誌Web全般に渡り、今後、予定されている開発の内容などが広く紹介されるものとなった。同年、英文タイトルの入力を開始、EBM準備・検討委員会が設置される。2002年7月、公共性の高い業務の性質上、公益法人化が望ましいと判断し、特定非営利活動法人(NPO)に組織形態を変えた。

これと時を同じくして、時代の流れは医中誌Webへの移行を促進し、長年続いた冊子体は終刊となった。翌年には、年間累積索引著者名編も終刊した。2004年には、冊子体2003年、医学用語シソーラス第5版が発行され、同年、3月に「医中誌創立100周年」を迎えた。その年より、EBMへの要求に応えるべく、4つの「研究デザイン」タグの付与を開始。1999年作成データまで遡り、「メタアナリシス:Meta-Analysis(MA)」、「ランダム化比較試験:Randomized Controlled Trials(RCT)」、「比較臨床試験:Controlled Clinical Trials(CCT)」、「比較研究:Comparative Study(CS)」のタグが付与された。その後、「診療ガイドライン」のタグも付与されるようになり、凡その作成状況が把握できるようになった。

2005年、12月をもって、冊子体での唯一の提供媒体であった、年間累積索引件名編も終刊となり、冊子体での提供はその年をもって終了した。2006年2月、医中誌WebもVersion4になり、一次情報へのリンクができるようになった。同年3月に、CD-ROM版のサービスも終了。この時をもって、Webサービスのみになり、インターネットの普及を改めて実感した。今後はますます、Webサービスの重要性が増し、Webを中心としたサービス形態の利点を生かし、利用者のニーズに応えていくことが、医療情報を提供し、医療の質の向上を目指す当会の、100年前に尼子四郎の思いを実現することであると、新たな医中誌の使命を自覚している。

医中誌Web、Version4のサービスは、当初、法人契約のみのサービスであったが、今年、2007年2月より、パーソナルWebにも適用され、法人、個人という分け隔てなく、利用者への期待に応えるべき、更なる機能の向上、サービスの展開を目指している。

### 3. 1. 3 医中誌の掲載資料数及び収録文献数

#### 1) 創刊から1945年(昭和45年)

- ① 創刊当時、掲載誌数、64誌、収録文献数、1,886件
- ② 1943年(昭和18年)、掲載誌数、465誌、収録文献数、21,452件  
40年で、約11倍に増加

#### 2) 1946年(昭和21年)から2002年

- ① 戦後、1947年(昭和22年)、掲載誌数、350誌、収録文献数、9,740件 350
- ② 2002年(平成14年)、掲載誌数、2,459誌、収録文献数、282,785件  
57年間で、約28倍に増加

\* 1944年(昭和19年)、戦災のため、休刊

### 3. 1. 4 発行形態の変化

- 1) 創刊から1936年(昭和11年)まで、B5版、縦組、科目別分類
- 2) 1936年(昭和11年)、4月から1983年(昭和58年)3月まで、B5版、横組、科目別分類、各巻索引
- 3) 1983年(昭和58年)、4月から1995年(平成7年)、A4版に変更、12月まで、横組、各巻索引、年間累積索引
- 4) 1992年(平成4年)、1月より、CD-ROM版、サービス開始
- 5) 1996年(平成8年)、1号から2002年(平成14年)、12号まで、A4版、科目別分類の抄録誌から、Index Medicus方式へ変更。キーワード配列による索引誌に。抄録はCD-

ROM版、医中誌Webに掲載

- 6) 2000年(平成12年)、4月より、医中誌Webサービス開始
- 7) 2002年(平成14年)、12号をもって、冊子体での提供は終了。但し、年間累積索引主題編は年間累積版として、引き続き発行。著者名編は2001年(平成13年)に終了
- 8) 2006年(平成18年)、3月、CD-ROM版のサービス終了

収載内容

- 1) 戦前…一般文献(科目別)以外に綜説(一般文献)、官報、新刊図書、最新文献、海外新着誌、法律、学位記事等を適宜掲載。
- 2) 戦後…殆ど一般文献(一次最新文献、新刊図書掲載)が主体
- 3) 最終分類科目…33科目  
生理学、生化学、薬理学、薬学、解剖学、病理学、実験腫瘍学、衛生学・公衆衛生学、疫学、微生物学、血清学・免疫学、法医学、精神医学、内科学、小児科学、放射線学、外科学、整形外科学、形成外科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、産婦人科学、皮膚科学、泌尿器科学、麻酔学、臨床検査、リハビリテーション、歯学、看護学、東洋医学、獣医学、医史学、社会医学
- 4) 戦前医中誌掲載一次文献綜説例
  - ① 腎臓疾患の病態生理 稲田龍吉 (医中誌 38巻、669-691頁、1933年、昭和8年)
  - ② 生理学の基礎的概念の考察(1) 刺激、興奮、被刺激性及び興奮性 橋田邦彦 (医中誌 36巻、735-757頁、1933年、昭和8年)

### 3. 1. 5 冊子体における文献検索

- 1) 創刊から1995年(平成7年)末まで  
科目別分類表示文献をブラウジングする検索法と各号あるいは各巻掲載の件名および人名索引をキーとした検索法
- 2) 1996年(平成8年)から2002年(平成14年)末まで  
科目別編集による抄録誌を改め、キーワード配列による索引誌となり、キーワードのもとに各文献の書誌事項が掲載されている

### 3. 1. 6 医学用語シソーラス

検索および索引用のキーワード集である医学用語シソーラスは現在、第6版(2007年1月発行)まで、作成されている。五十音順とカテゴリー別リストで構成されている

### 3. 1. 7 医中誌データベース作成の概要

医学中央雑誌データベース(医中誌DB)は、医学・歯学・薬学および看護学などの関連領域の定期刊行物を対象とした文献情報を蓄積したもので、データソースは、国内の大学・研究所・学協会・病院などから発行されている紀要や学会誌・会議録、医学系出版社が発行する商業誌の他、公共資料や講演集など、約2400誌。収録されている文献データは1983年から現在までで、5,954,704件。データの内容は、いわゆる書誌情報(文献のタイトル、著者名、著者の所属機関名、雑誌名と発行年月・巻号ページなど)と、キーワードおよび抄録である。

データ作成の大まかな流れは、1) 資料収集と採択、2) 資料の受入、3) 文献の採択、4) 書誌情報の入力、5) 抄録の作成、6) インデクシング、となる。

#### (1) 資料収集と採択

「医学中央雑誌」は創刊以来、網羅的な資料収集を行っている。資料の半数ほどが、学会・大学・学校・病院・出版社からの寄贈で、半数は購入している。未収録の資料や新しく創刊された資料については、新刊案内・医学雑誌目録・学会案内リストなどをチェックし、取り寄せます。そして、採否を検討します。最近では、「医中誌Web」利用者から資料の自

薦・他薦情報がメールで寄せられることもある。収録候補資料の採否検討は、複数の採択担当者によって行われている。この検討会は、以前は半年～1年に1度であったが、タイムラグ短縮への配慮により、2002年より1～2ヶ月に1回の割合で開かれている。

#### (2) 資料の受入

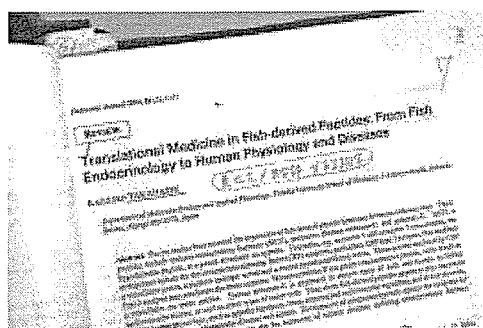
医学中央雑誌刊行会には、毎日40～50冊、年間約1万冊の資料（雑誌）が届きます。届いた資料に対して、まず書誌番号（雑誌番号）を付与し、データベースに登録する。書誌番号とは、届いた年月日と登録順から成る10桁の番号です。例えば、2004年6月2日に届いた資料で、1番目に登録される場合2004060201となる。

#### (3) 文献の採択

資料の登録後、掲載されている各文献について、データとして採択するかどうかを検討する。新しく発刊された雑誌に対しては、定期的に採択するか否かを検討している。手順としては、採択担当者が各文献をチェックし、医学に関連する文献はすべて、採択、化学物質の合成・分析研究、植物そのものの研究、野生動物の生態や病気の研究などは採択対象にはしていない。医学の周辺領域に関する文献の採択はかなり微妙なところもあり、採択担当者の経験に拠っている。また、インタビュー、対談、座談会、巻頭言、訪問記、書評、エッセイなどは採択しないというルールになっている。また、発表者が記載されていない文献も採択していない。採択された文献は、即座に、記事区分（論文種類）と抄録を付与するかどうかが決めている。原著論文に分類された文献は、原則として抄録を付与する指示が入り、抄録作成に取り掛かります。

#### (4) 書誌情報の入力

文献の書誌情報の入力は専門の入力業者に依頼しておりそのための、細かい指示が文献ごとに書き込まれる。まず、文献管理番号で、これは、10桁の雑誌番号に4桁の番号を加えたものである。たとえば、2004060201の雑誌の1番目に採択された文献は、2004060201-0001となり、これが文献管理番号すなわち文献のID番号となる。この他に、特集記事の指示や著者の所属機関等、どれを、どのように入力するかを細かく指示がなされる。この作業は一見無駄のようにも見えるが、入力者が迷わずに済むように、きちんと細かく指示をする方が、結局は時間が短縮される。文献の書誌情報が一定のルールでデータ化されるように、この処理は必須となっている。ただし、1,000件以上の文献が掲載された会議録（学会抄録）などは、この作業に1週間以上要することもある。



(図1)

この前処理の指示に従って入力したデータ（書誌情報）がデータベースに流し込まれると、以降の作業は「JAMAS 2 System（医中誌データベース作成システム）」上で行われる。

入力された書誌情報のうち、著者名と所属機関名については、当会で収集した、それぞれの辞書とのマッチングを行い、自動的にヨミが振られる。著者名は複数のヨミがある場合でも、便宜上1つに決めてヨミを振っている。たとえば、「西原」という名字は「ニシハラ」「サイバラ」の両方のヨミがあるが、「ニシハラ」を採用しており、名前についても同様に1つの読みを採用している。マッチングで漏れた初出の著者名・所属機関名のヨミ振りは手作業で行う

と同時に、各辞書に登録され、次回からは自動的にヨミ振りされる。このように、ある程度、統制された、ヨミ振りを行っている。

#### (5) 抄録の作成

抄録作成は、それを専門とする50名ほどの契約者に依頼し、第三者抄録として作成している。抄録者には文字数が、300字程度に収まるよう指示し、出来上がってくるまでに、平均2週間程度を要している。2004年から、この期間を短縮するため、著者抄録の利用を開始し、各学会、出版社に直接、交渉し、許諾を得るという作業を行ってきた。この許諾交渉は順調に進んでおり、昨年までで、約400の学会、約30の出版社から、著者抄録の使用許諾を頂き、今後も、増える予定である。昨年までの累計で、35,000件ほどになっている。

作成された抄録原稿は、電子ファイルの場合と手書きの場合がある。抄録原稿は数年前までは手書き原稿が主であったが、今ではファイルにしてメールで届けられることが多くなっている。手書き原稿はテキストファイルにする作業が入り、今でも達筆のあまり判読に苦勞する原稿がある。こうして作成された抄録テキストは、担当者により校正され、それが終了すると、データベースに追加される。

#### (6) インデキシング(索引作業)

書誌情報と抄録が入力された文献は、データ作成の最終段階であるインデキシングに回される。約30名(職員10名、契約者20名)のインデクサーで、毎月20,000~25,000件、年間約30万件もの文献にインデキシングしている。インデキシングとは、当刊行会作成の「医学用語シソーラス」に基づいてキーワードを付与し、さらに、副標目、チェックタグ、研究デザインタグを付与することを言っており、この作業によって、漏れの少ない検索やさまざまな観点からの絞り込み検索が可能になります。

インデキシングが終了すると、「医中誌Web」で提供されるデータとして準備が整ったことになる。これらは、改めて、その年度の通し番号(10桁の「文献番号」)が付与され、毎月1日と16日に医中誌Webにアップされる。

以上の工程に、最短で1ヶ月、平均3~4ヶ月かかっており、この期間を少しでも短縮することがデータベース作成上の大きな課題となっている。

#### (7) インデキシングとマッピングを支える用語管理

「医中誌Web」の検索を補完する機能として、「同義語から統制語へのマッピング機能」がある。この機能は、もともとはインデキシングサポート機能として利用していた仕組みを検索に応用したもので、この仕組みを支えているのが「用語管理」である。インデクサーは、日々文献と接していくなかで新しい用語に出会う。病名のことあれば物質名のこともあり、それらの新規語について、さまざまな辞書や資料を調べ、また文献で、どのように表現されていることが多いのかなどをチェックし、見出し語と同義語の関係を定めていく。

一昨年発生した「SARS」を例にあげますと、医中誌では一昨年、4月に、フリーキーワードとして登録したが、その際、この用語の見出し語を「重症急性呼吸器症候群」と定め、その同義語として「Severe Acute Respiratory Syndrome」「新型肺炎」「SARS (Severe Acute Respiratory Syndrome)」などを登録した。

このような処理により、いずれの言葉で表現されていても、インデキシングでは間違いなく「重症急性呼吸器症候群」が付与される。そして、検索の際には、たとえば「新型肺炎」と入力すると、自動的に、「重症急性呼吸器症候群」が付与された文献がヒットすることになる。

このような日々の用語管理作業を通して収集された用語数は現在45万余語にのぼっており、これらが、「医中誌Web」の検索機能に生かされ、利用者はシソーラスをそれほど意識することなく、検索できるように工夫されている。

#### (8) EBM対応データ作成への取り組み

医中誌基本データベースでは、1999年以降の作成データのうち、原著論文について「研究デザイン」という視点からチェックし、該当する文献に「メタアナリシス: Meta-Analysis

(MA)」「ランダム化比較試験：Randomized Controlled Trials (RCT)」「比較臨床試験：Controlled Clinical Trials (CCT)」「比較研究：Comparative Study (CS)」の4種類の研究デザインタグを付与している。

①比較臨床試験

「比較臨床試験」は、臨床試験の対象者を複数のグループに分ける際の方法が正確なランダム割り付けではないが、それにかなり近い方法で行われている場合にタグが付与されている。したがって、非常に狭い定義で付与していると言える。この定義からすれば、「準ランダム化比較試験」とした方が良いのではないかと、というご意見もある。

②比較研究

「比較研究」は、診療ガイドラインを作成する際に有益なデータを収集しやすいようにとの配慮から設けられ、臨床文献のうち、比較分析を行っている研究に付与しているもので、次の2つの方法で研究されている場合が代表的なものである。一つは、対象者を複数のグループに分けて比較している場合。もう一つは、治療や診断などの方法が複数あり、それを比較している場合である。たとえば、花粉症の患者にある薬物を投与して、効果をみている場合、その薬物を投与する患者群と投与しない患者群をつくり、結果を比較している場合が前者です。後者は、花粉症の治療方法として、薬物療法とレーザー治療の、どちらが有効かを、実際に患者に行って、比較するなど、あるいは過去のデータを収集して比較検討している場合などを指している。さらに、疾患のリスクを調べる「コホート研究」や、健常者と患者とを比較する「症例対照研究」にも付与されている。「比較研究」は、2003年以降の作成データのみで付与されているが、2004年7月1日現在の付与データ数は、13,311件。他の3つの研究デザインは1999年まで遡って付与されているにも関わらず、付与総数は2,427件であるので、それを大きく上回っている。しかし、疾患ごとに検索して「比較研究」で絞り込むとそれほど多くはなく。前述の花粉症の比較研究は60件である。ちなみにRCTは12件。「比較研究」は膨大なデータを絞り込むツールとして一つの有効な方法ではないかと思っている。

(表1)

データ作成年	メタアナリシス	ランダム化比較試験	準ランダム化比較試験	比較研究	診療ガイドライン
1999年	5	208	18	0	6
2000年	5	245	26	0	18
2001年	12	366	59	0	27
2002年	18	360	63	0	67
2003年	30	518	100	8,629	74
2004年	37	544	110	8,210	62
2005年	19	477	140	8,404	128
2006年	46	721	201	10,973	111
2007年	3	38	5	514	2
総計	175件	3,477件	722件	36,730件	502件

(9) 論文種類の追加

2007年より、「論文種類」(医学中央雑誌基本データベースに採択している文献のタイプ別分類、「記事区分」と呼称する場合もある)の見直しを行い、今までより、きめ細かい分類

を行っている。まず、従来「解説」「一般」などに分類されていた文献のうち、「Q & A」「レター」「症例検討会」に該当するものは、それぞれ新設される論文種類「Q&A」「レター」「症例検討会」に分類。更に、1991年より採択が中止されていた「座談会」に該当する文献を、再度採択することとし、同じく新設される論文種類「座談会」に分類しており、医中誌Webでの絞り込み検索が可能になっている。

#### ①座談会

医療関係のトピックについて、「座談会」「対談」「鼎談」などと明記され、2人以上の対談形式で掲載されている記事を「座談会」として収録する。なお、この座談会記事は、1990年作成データまでは「会議録」として採択されていたが、1991年作成データより採択を中止していた。

#### ②Q & A

これまで「解説」として分類されてきた、質問と答えで構成された記事を「Q & A」とする。

#### ④レター

手紙形式の記事を「レター」とする。「編集者への手紙」、「Letter to the editor」「著者からの返事」、「Author's Reply」等がこれにあたり、これらの記事は、これまで「一般」として分類されていた。

#### ⑤症例検討会

実際の経験症例を取り上げて、診断、治療、予後、患者教育、看護の方法などについて討論する形式で掲載された記事を「症例検討会」とする。討論のやりとりが省かれ、討論結果と考察のみの記事も含む。「症例検討会」、「クリニカルカンファレンス」、「ケースカンファレンス」、「事例検討会」、「臨床病理検討会」、「CPC」等。なお、これらの記事は、これまで「会議録」または「解説」として分類されていた。

以上のような、作業を経て、医中誌基本データベースとして、医中誌Webから、医学文献情報が提供されており、検索および索引に用いる、シソーラスの改定ばかりでなく、編集内容は利用者からの意見を積極的に取り入れ、常に改善する方向で進んでいる。

### 3. 1. 8 医中誌Web Version 4

次に、昨年、2月にバージョンアップされた、医中誌Webの機能と今後の展開について、述べたい。

「医中誌Web (Ver. 4)」では、検索結果から、オンラインジャーナル等へのリンク、あるいは機関ごとの個別の設定が可能になり、Ver. 3から、新たに一步を踏み出したサービスが実現されている。

#### (1) オンラインジャーナル等へのリンク

検索結果から、ワンクリックでフルテキストが読める機能というのは、利用者にとって、その利便性は究極の形態と言える。海外に比べ、国内の医学雑誌の電子化は遅れているが、Ver. 4では、現存するサービスについて、極力、医中誌からのリンクを確保することを基本方針に据え、国内オンラインジャーナルへのリンクを実現しつつある。リンク先のサービスに関しては、フリーで公開されている場合と認証が必要な場合とがある。後者の場合、医中誌Webとは別に、機関、あるいは個人の契約が必要となる。以下に医中誌Webにて、実現された一次情報へのリンク先を、紹介する。

- 1) Medical Online: (株)メテオインターゲートが提供する国内医学文献の全文PDF配信サービス。2005年9月現在、収録誌は約400誌あり、うち375誌が医中誌採択雑誌。Medical Onlineの一部の収録雑誌は、発行から一定期間、全文PDFは提供されず、Faxによる配信となるが、医中誌Webでの検索結果によって、示されるアイコンには、それぞれ異なるアイコンが表示される。

- 2) PubMed: PubMed IDにより、文献単位でのリンクが行われる。一部の文献については、PubMedから更に、リンクをたどり、フルテキストを閲覧することができる。今回、リンクの対象とした雑誌は、"List of Journals for MEDLINE" (2005年版)のGeographic Listingにおいて、発行国が「Japan」となっている148誌のほか、日本の学会だが、外国の出版者によって刊行されているもの、過去にMEDLINEに収録されていた雑誌も含む、約380誌となっている。
- 3) CrossRef: DOI (Digital Object Identifier)により、文献単位でリンクが行われる。一部の文献に関しては、フリーで閲覧することができる。
- 4) PierOnline: (株)サンメディアから、提供されている電子ジャーナルホスティングサイトへのリンク。医中誌Webからのリンクだけでなく、PierOnlineから、医中誌Webへのリンクも行われている。
- 5) CiNii: NII (国立情報学研究所)の学術コンテンツポータル、「GeNii」にある、論文情報ポータルサイト、「CiNii」との相互リンクです。CiNiiの一部の文献については、更に、NII-ELS (NII電子図書館)のフルテキストにリンクがはられており、昨年、12月から、行われている。

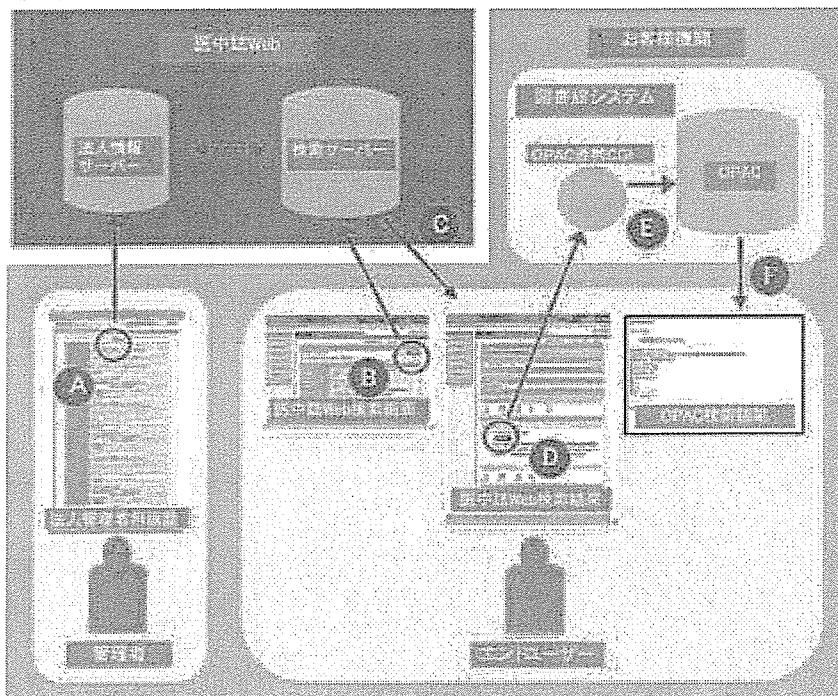
医中誌Webから、上記の各サービスへのリンク件数は、トータルで約50万件 (2005年11月現在)。また、リンク情報の更新は月1回、行っている。

今後は、リンク先を拡充するのは勿論のこと、フリーで閲覧可能なタイトル一覧をお知らせする、あるいは、フルテキストリンクありという絞り込み検索を可能にするなどして、実用性を高めたいと考えている。

## (2) OPAC (Online Public Access Catalog-蔵書検索システム) 連携

医中誌Webの検索結果に、OPACアイコンが表示され、そのアイコンをクリックするとOPAC検索がダイレクトに行われる。

(図2)

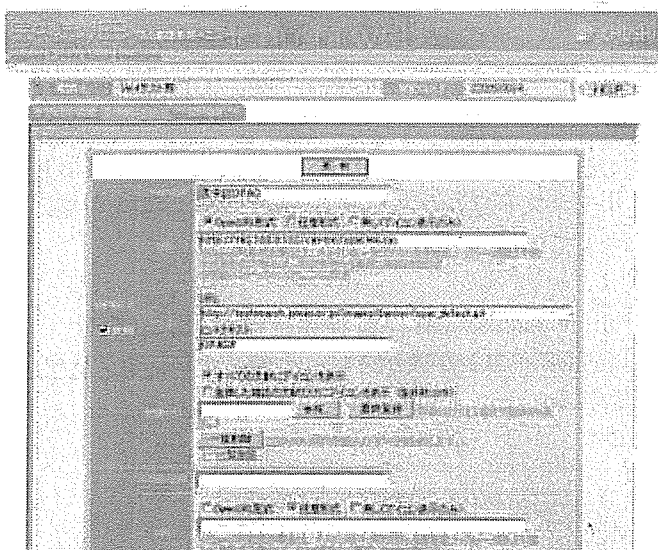


A: 法人管理者用画面、OPAC連携CGIのURLなどの必要項目を入力し、その内容が法人情報サーバに登録される

- B: エンドユーザー (検索者) が医中誌Web検索を行う
- C: 検索サーバは、検索結果を表示する際に、法人情報サーバを参照し、OPACアイコンを表示する
- D: 検索者がOPACアイコンをクリックする
- E: ISSNなど必要情報がOPAC連携CGIを経由して、OPACに送られ、OPAC検索が行われる
- F: OPAC検索が表示される

医中誌Webから送り出すデータフォーマットは、当初OpenURLのみを予定しているが、OpenURLに対応していないシステムでも連携を可能にするため、ISSNを任意の形式で送り出す方式を追加した。また、図書館で所蔵している雑誌のISSNリストを所定のフォーマットで作成し、医中誌Webサーバに登録することにより、図書館で所蔵している雑誌の文献のみ、OPACアイコンを表示することも可能である。

なお、同様の手順により、リンクリゾルバへの連携も行える。



(図3)

1. 使用チェック: 必ず入れる
2. OPAC名称: 適当な名称を入力
3. URL: 送り出すデータ形式 (OpenURLまたは任意形式) を選択し、前者の場合は、OPAC連携CGIのURL、後者の場合はURLとともに送り出すデータの形式を入力する
4. アイコン: 検索結果に表示されるアイコンのURLを入力 (無しでも可)
5. 所蔵リスト: 所蔵している雑誌にだけ、アイコンを表示したい場合、登録する

### (3) 所蔵を示すアイコンを検索結果に表示

OPACを導入していないが、所蔵している雑誌の文献に、所蔵を示すアイコンを表示できたら便利との利用者からの超えを実現した。

OPAC連携と同様に、法人管理画面で事前の準備作業を行い、所蔵している雑誌の文献にのみ、アイコンを表示する機能を実現した。所蔵している雑誌のISSNリストの登録が必要である。

### (4) 法人管理メニュー

- 1) デフォルト設定: 機関ごとに、主な項目について、デフォルト値を設定できるようになった。例えば、検索対象年を最新5年分にするのが適当という場合が多いが、企業のユーザーでは、「全年」を対象とする場合が多い様であり、このような設定



項目を利用者ごとに設定できるようにした。

- 2) 外部リンク: 当面はOPAC連携の設定のみ行える
- 3) ログ閲覧: アクセスログの閲覧ページをこの画面に包含した。閲覧できる内容は、1時間単位でのログイン数と、最大同時アクセス数、同時アクセスオーバーなど、従来通りのものである。

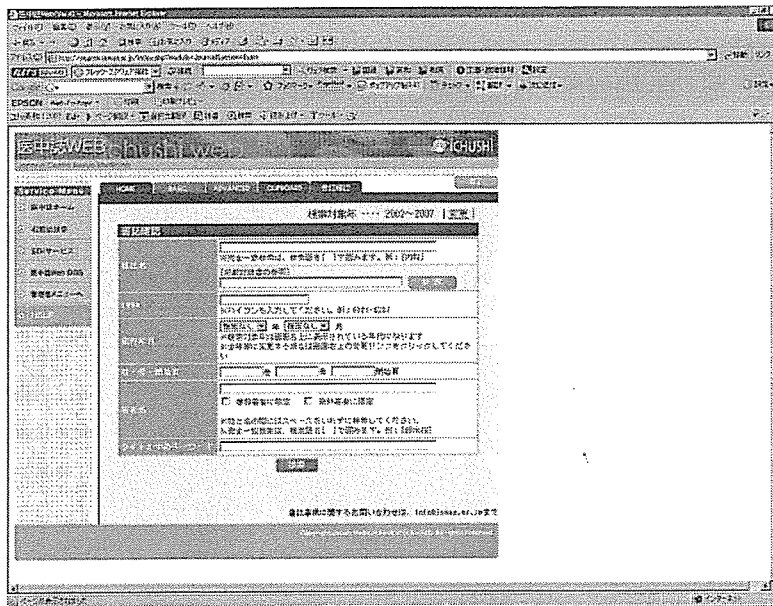
(5) 印刷、ダウンロードなど、出力の流れを改善

出力設定を含め、出力の流れをわかりやすくした。従来は、いったん、印刷用表示に表示内容を切り替えた後に、ブラウザの機能で印刷するというものであったが、イメージアイコンを並べ、検索結果から、印刷したい内容を選択し、別ウィンドウを開き、プリンターのアイコンをクリックすると行えるように改善した。

(6) 書誌確認用画面とWebcat Plusへのリンク

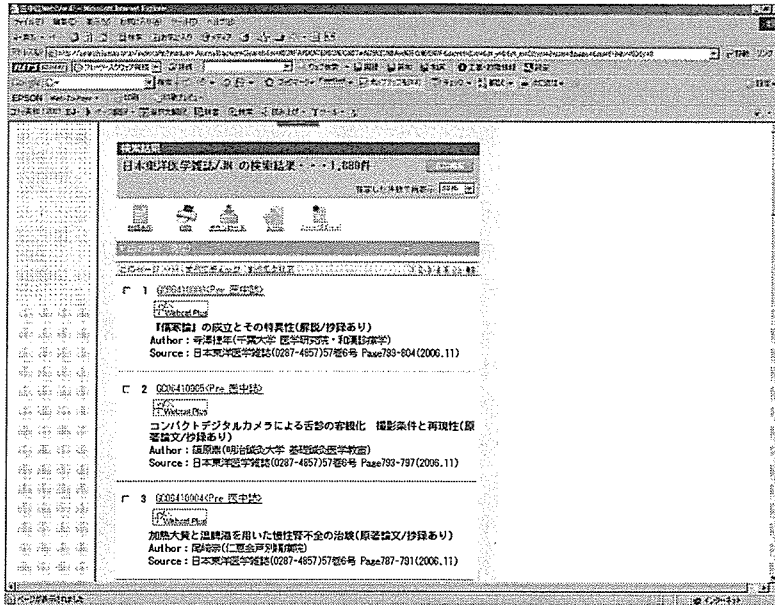
オンラインジャーナルへのリンク、OPAC連携、リンクリゾルバに続き、ILL (相互貸借) 支援を年頭においた書誌確認用画面を新設し、Webcat Plusへのリンクを実現した。書誌確認画面は、PubMedのSingle Citation Matcherを手本にし、書誌事項を確認するための検索画面である。必要な項目を一度に入力して、検索することが可能になった。

(図4)



書誌確認用画面での検索結果(タイトル表示)は、BASIC MODE、ADVANCE MODEと同様に画面の下部に表示されるが、ISSNを持っている雑誌の文献の場合には、各文献にWebcat Plusへのリンクアイコンが表示される。Webcat Plusとは、NIIが提供する図書・雑誌の書誌や所蔵館情報の検索サービスで、医中誌の利用者の間でも、相互貸借の際の所蔵確認に広く利用されている。そこで、NIIの許可を得て、医中誌Webの検索結果から、ダイレクトにWebcat Plusにおける該当の雑誌のページにリンクを張るようにした。なお、Webcat Plusのアイコンは、書誌確認用画面では、必ず表示されるが、BASIC MODE、ADVANCE MODEの検索結果には、初期状態では表示されない。表示させたい場合は、法人管理者用画面のデフォルト設定で、「Webcat Plusリンク表示」を「する」に変更する必要がある。

(図5)



### 3. 1. 9 今後の展開

これまでに実現した、医中誌Webの機能を記したが、今後、クリップボード機能、検索式の出力方法の改善など、今後も、更に利用者が、より良く使えるよう、また、時代に合わせた、ニーズに応えるべく、更なる改善を予定しており、個人での環境設定も視野に入れている。

この先、API (Application Program Interface) を利用し、データベースとデータベースを、利用者がより、使いやすくなるように、あらたな展開も検討している。

### 3. 2 医学用語シソーラスの歴史と変遷

#### 3. 2. 1 はじめに

医学中央雑誌刊行会は1903年(明治36年)より、わが国の医学界に貢献すべく、臨床医学に重点を置いた二次情報を作成、提供してきた。創刊当時、抄録誌として発刊され、その内容には、写真や図なども載っており、まさしく雑誌の形態をとっておりました。時代の変化とともに、その情報量も増え、1983年、効率良く、文献情報にたどり着けるように「医学用語シソーラス」の第1版が作成されました。NLM(National Library of Medicine: 米国国立医学図書館)が毎年発行している、MeSH(Medical Subject Headings)をベースにし、日本独自の疾患名や社会保険制度等の用語を加え、ディスクリプタのコンセプトごとにグループ化され、表記が異なる同義語によっても、文献情報にたどり着けるようになっております。その後、定期的に改訂作業が行われ、2007年1月より、第6版が作成され、索引作業に使用されております。利用者が効率よく、より早く利用できるようと、1992年、CD-ROM版が作成されました。1996年、社内OA化の整備が整い、コンピュータを使用し、文献情報の作成、編集が行われるようになり、発行形態も抄録誌から索引誌、NLM(National Library of Medicine: 米国国立医学図書館)が発行していた、Index Medicus方式を採用することになりました。その理由は、創刊当時から、網羅性を重視し、文献情報を採択してきたことから、学会抄録集など、会議録と呼ばれるものの情報量が増え、冊子体という形態では、抄録まで掲載することにより、利用者が利用しにくくなるのではというものでした。冊子体からは抄録がなくなりましたが、CD-ROM版には抄録まで、提供しておりました。その後、インターネットの普及により、Webでのサービス提供を望む声が高まり、2000年4月、「医中誌 Web」が構築されました。医中誌 Webも過去、三回のバージョンアップを行い、より早く、より効率良く、利用者が必要としている文献情報の検索を可能にするばかりでなく、2006年2月にリリースされた、Version 4では、一次情報へのリンクを充実させております。何時でも、何処でも、誰でも、必要な時に、必要な情報が手に入れられる環境に合わせ、より良く医学文献情報が手に入れられ、一次情報の提供まで、受けられるように、文献検索を支えてきたのが、「医学用語シソーラス」であります。この「医学用語シソーラス」の歴史と変遷に関して、述べさせていただきます。

#### 3. 2. 2 医学用語シソーラスの歴史

「医学用語シソーラス」は、1983年、第1版が発行され、以来、数年毎に改訂を重ねてきました。第1版から、MeSHを参考とし、第3版以降、カテゴリー構造や登録語については、ほぼMeSHに準拠する形で作成しています。

第1版から第6版に至るまでの変遷は以下の通りです。

(表1)

医学用語シソーラス	発行年	準拠とした MeSH の版	見出し語数
第1版	1983	1978	13,485
第2版	1987	1984	17,882
第2版修正版	1990	1984	17,926
第3版	1994	1991	14,454
第4版	1999	1997	18,156
第5版	2003	2001	21,378
第6版	2007	2005	25,317

##### (1) 第1版シソーラス

医学中央雑誌索引語である、「件名標目表」用語を収載して、作成されました。カテゴリーは3階層まで採用されております。これはMeSHを参考にして、作成されました。発行形態としては、五十音順で、見出し語(ディスクリプタ)と同義語(非ディスクリプタ)が並列に表記されてお

り、いわゆる、電話帳方式、漢字順に配列されておりました。この頃から、副標目 (SubHeadings) とチェックタグ (ヒト、動物、年齢、性別等の区分) を組み合わる索引法が取られておりました。また、参照案内として、関連参照語、MeSH の see also にあたる関連参照語も掲載されていました。

当時の冊子体は、基礎から臨床、および関連分野までの 33 科目に分類され、各分類項目にそれぞれ、細分類があるという形態がとられており、それぞれの中で、シソーラス用語が冊子体の件名索引として機能しておりました。

(図 1)

(図 2)

第1版シソーラスの表記

栄養・代謝疾患	C18
栄養障害	C18-1
壊血病	C18-1
代謝疾患	C18-2
類澱粉症	C18-2

件名索引の例

腫瘍-細胞学/免疫学	…031771
-/生化学/免疫学	…031694
-/免疫学	…034168
-/-/薬物療法	…036406
腫瘍-多発性原発	…035363
腫瘍再発-局所性	…032210
腫瘍転移	…032394
-/予防・抑制	…031694

(2) 第2版シソーラス

第2版になると、カテゴリー構造も第4階層まで拡大され、MeSHのカテゴリーAからGまでの用語が収載されました。この版は一部、欠落や非ディスクリプタからディスクリプタへの案内が修正され、修正版が発行されています。この間に CD-ROM 版、医学中央雑誌 (医中誌) が作成され、CD-ROM 版にはこの修正版が採用されています。

(図 3)

第2版シソーラスの表記

栄養・代謝疾患	C18
栄養障害	C18-1
飢餓	C18-1.1
壊血病	C18-1.2
代謝疾患	C18-2
代謝異常-先天性	C18-2.6
類澱粉症	C18-2.6

(3) 第3版シソーラス

この頃になると、データベース検索の為という要素が一層濃くなりました。CD-ROM 版の普及、社内 OA 化に伴い、データベースの作成、編集作業もコンピュータで行われるようになり、検索側からの要望が作成側に、また作成側から検索側へ、詳細の伝達等がよくなるキッカケとなった頃でもあります。この版においては、ディスクリプタと非ディスクリプタの関係がより、明確化になり、また、全用語にふりがなが付与され、従来の電話帳方式の配列から、ヨミによる、五十音配列へ変更されました。初めて医中誌を CD-ROM 等で検索される利用者にも、より使いやすくなりました。また、カテゴリーコードも用語ごとにユニークになり、グループ化が一層、明確になりました。この版では、1991 年版、MeSH の用語をカテゴリー A から G まで、2 版と同様に採用しており、カテゴリーに関しては、階層構造を MeSH と同レベルにまで、拡張することができました。また、医中誌で採用した独自のキーワード、日本独自の用語 (例として、社会保険制度などの用語) をかなり、フリーキーワード (統制語に順ずるもの) とし、より、MeSH に近いものとなりました。

(図 4)

栄養と代謝性疾患	C18
栄養障害	C18.1
飢餓	C18.1.1
欠乏症	C18.1.2
Vitamin Deficiency	C18.1.2.3
Ascorbic Acid Deficiency	C18.1.2.3.1
壊血病	C18.1.2.3.1.1
代謝疾患	C18.2
代謝異常-先天性	C18.2.9
類澱粉症	C18.2.9.12

CD-ROM のサービス開始から、カテゴリー検索は、下位概念の用語も含む、エクスプロード検索に対応できるようになり、より、使い勝手がよくなりました。

社内 OA 化にともない、索引作業の支援機能を充実させることにも、力が入るようになりました。データ作成上も、用語を管理する業務の重要性が重視されるようになり、現在では、専任の用語管理担当者と索引作業者が、新たに発生する用語、多くは索引作業 (インデクサー) からの提案によるものを、その定義、出典等を日々、調査し、採用、不採用を検討しております。

#### (4) 第4版シソーラス

1997 年版、MeSH の全用語、99% に対応しました。検索効率の向上を図るため、見出し語への案内、マッピング機能を充実させることに重点がおかれ、同義語となる非ディスクリプタの充実を図りました。また、編集作業コンピュータ処理の特典を生かし、出現頻度を考慮し、ディスクリプタの変更を行うなど、それまで、担当者の勘と裁量にプラスして、データ分析という要素が加わりました。また、新設語、削除語、変更語のリストも掲載されるようになりました。

(図 5)

栄養と代謝性疾患	C18
栄養障害	C18.5
飢餓	C18.5.5
欠乏症	C18.5.10
Vitamin Deficiency	C18.5.10.15
Ascorbic Acid Deficiency	C18.5.10.15.5
壊血病	C18.5.10.15.5.5
代謝疾患	C18.10
代謝異常-先天性	C18.10.55
アミロイドーシス	C18.10.55.25
(旧類澱粉症)	

(図 6)

Ketosis, Diabetic	→ 糖尿病性ケトアシドーシス
Tupaidae	→ ツハイ科
抗エストロゲン剤	→ Estrogen Antagonists
抗原-自己	→ 自己抗原
昼間治療	→ デイケア
豚臍	→ ベんち
類肉腫症	→ サルコイドーシス

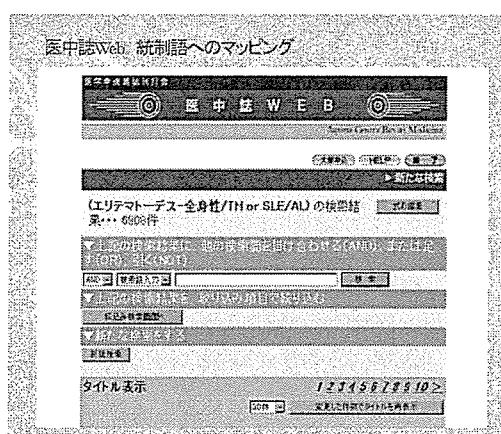
(図 7)

1999年 地名、人名をフリーキーワードとして収載

2000年 副標目の整理、統合  
100→36標目

2000年 医中誌Webサービス開始  
テキストサーチが可能に  
同義語辞書活用による統制語へのマッピング

(図 8)



### (5) 第5版シソーラス

2003年、コンピュータ処理の特性を社内でも生かせるようになり、2001年版MeSHに対応した、第5版が作成されました。4版の作成で得たノウハウを発揮し、MeSHに準拠するばかりでなく、国内医学に適合したシソーラスを作成する方針で、改訂作業が行われました。MeSHにある、Pharmacologic Actionを薬効別のカテゴリーとして採用し、日本薬局方に収載されている生薬と漢方薬を収載し、看護、介護関連の用語を充実させ、疾患名以外のディスクリプタは利用者にもわかりやすいように自然語形を採用、また、物質名や細菌名以外は和文の表記を優先し、たとえば、MeSHで採用されている語であっても使用頻度の低いものは、日本の実状に合わせて、整理、統合しました。

(図 9)

第5版シソーラスの表記

栄養疾患と代謝性疾患	C18+
栄養障害	C18.10+
飢餓	C18.10.10
欠乏性疾患	C18.10.20+
ビタミン欠乏症	C18.10.20.30+
アスコルビン酸欠乏症	C18.10.20.30.10+
壊血病	C18.10.20.30.10.10
代謝性疾患	C18.20+
代謝異常-先天性	C18.20.140+
アミロイドーシス (旧類澱粉症)	C18.20.140.30+

(図 7)

MeSH Pharmacologic Action のカテゴリー

- Chemical Actions and Uses [D27]
- Pharmacologic Actions [D27.507]
- Therapeutic Uses [D27.508.953]
- Anti-Inflammatory Agents, Antirheumatic Agents, and Inflammation Modulators [D27.509.954.154]
- Antirheumatic Agents [D27.509.954.154.050]
- Anti-Inflammatory Agents, Non-Steroidal [D27.509.954.154.050.024]
- Antirheumatic Agents, Gold [D27.509.954.154.050.050]
- Gold Sulphosuccinates [D27.509.954.154.050.021]
- Mineral Agents [D27.509.954.154.050.337.040]

(図 8)

医中誌 化学作用(薬効)カテゴリー

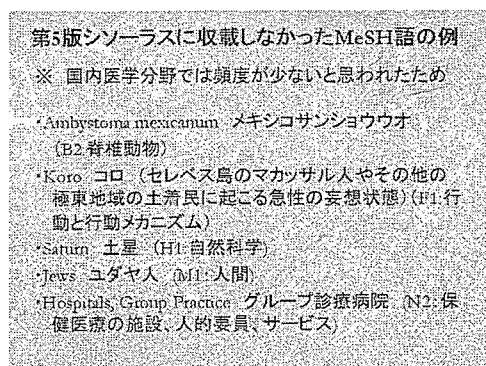
- 化学作用/効果[D27]
- 化学作用[D27.10+]
  - 抗がん剤 抗リウマチ薬 免疫メディアイター[D27.10-110-110+]
  - 抗リウマチ薬[D27.10-110-110+]
  - 痛風抑制剤[D27.10-110-110-150+]
    - Allopurinol[D27.10-110-110-150-10]
    - Colicolicin[D27.10-110-110-150-20]
    - Indomethacin[D27.10-110-110-150-30]
    - Nasacofen[D27.10-110-110-150-40]
    - Proxifenone[D27.10-110-110-150-50]
    - Zeltonifen[D27.10-110-110-150-60]
    - 尿酸排泄促進薬[D27.10-110-110-150-70+]
  - Anaprazole[D27.10-110-110-150-70-10]
  - Eurochromone[D27.10-110-110-150-70-20]
  - Dinitrophenol[D27.10-110-110-150-70-30]
  - Halofenate[D27.10-110-110-150-

MeSHでは、Supplementary Concept Record という薬物や化学物質を別にもっており、それらの用語はそれぞれが、MeSHのディスクリプタへマッピングされるようになっています。医学中央雑誌刊行会では、この方式を生かし、薬物や化学物質のカテゴリーを独自に作成し、概念、

定義のグループ化をしました。

上記のような、形になっており、このような独自のカテゴリの構築は、漢方や鍼灸と言った、MeSH にはない、伝統医学関連の用語の扱いにもいかされております。

(図 9)



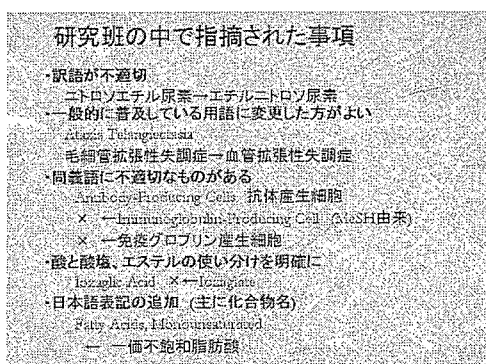
#### (6) シソーラス改訂作業と過去データの変更処理

これらの変更に伴い、過去、1996年から作成されたデータを、3版シソーラスの用語から、4版シソーラスの用語へ変更する作業も行われました。最終的には担当者ばかりでなく、索引作業にたずさわる社員までも含めてチェック作業が行われ、より、新たなシソーラスの用語での検索がいち早く可能になりました。これが、後々まで引き継がれるようになり、バックメンテナンス作業として位置付けられ、版の改訂ばかりでなく、新たに発生する用語の概念や定義に対応できる、基礎が誕生しました。

後に、社内OA化以前のデータ、CD-ROMで提供されていた1987年から1995年までのデータ、および、1983年から始まった電算処理により編集されたデータに至るまで、医中誌Webにて提供できるようになりました。もちろん、一度にではなく、1994、1995年の2年分の処理から始まり、1993年から1987年に遡り処理をし、これが第2ステップとなり、最終的に、1986年から1983年に遡って4版シソーラス対応のデータに変換され、現在に至ります。この頃は、私も、毎日、データの処理をあらゆるソフトやスクリプトを作成しては、担当者に見てもらい、また、修正作業をし、というような毎日でありました。

本研究班に協力することになったのは、2001年からであります。医学中央雑誌シソーラスを用いて、UMLSとの対応が、どのようなものかを図る作業が行われた。研究班の中で、以下のような点が指摘された。

(図 10)



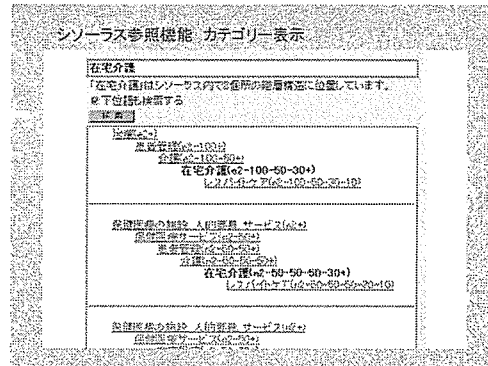
これらの指摘は、第6版シソーラスの改訂に採用されることになった。

また、2003年9月より、医中誌Webにシソーラスの参照機能が追加され、エクスプロード検索も可能になりました。MeSH Browserのようなものを望む声は利用者の中でも多く、これに答えられるようになりました。難を言えば、同義語や定義、インデキシングルールなど MeSH

Browser には既にある機能が追加され、シソーラスの閲覧が可能になれば、なお良いのですが、種々の事情により、今のところは、検索支援という域に留まっています。今後は利用者の要望に答えるべく、医中誌 Web の改善を続けていく予定です。

(図 11)

(図 12)



(7) 第5版から第6版への改訂作業

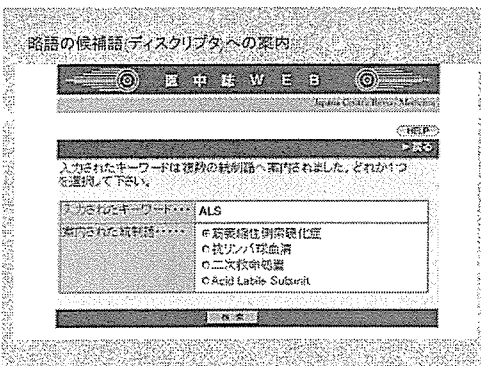
この改訂作業のために、「医学用語委員会」(委員長:野添篤毅)を編成し、2004年11月に第1回用語委員会を開き、改訂作業の方針が検討されました。

第5版からの継続検討事項は以下のとおり。

- ① 略語の扱い…医中誌 Web にて、ディスクリプタへの案内に活用する
- ② 英和対応…英語、日本語に限らず、シソーラスの中では、表記の違う同義語となっているものを、よりよく活用できるようにしてはどうか。
- ③ 提供媒体…冊子体よりも、機能を充実させ、Web での提供を充実させる

略語に関しては、医中誌 Web 上では、以下のように案内されている。

(図 13)



6版への改訂には、2005年版 MeSH へ対応し、発行は2007年1月を予定することが決まりました。5版改定時から、早4年が経過しており、前回の改定では、2001年版の MeSH に対応しているため、その4年間の MeSH の変更内容を6版シソーラスに反映させることが必須事項でありました。

この間の主な改訂内容は、

- ① 動物のカテゴリの改変
- ② 植物名の追加…生薬、漢方薬などを使用する治療法に対応
- ③ 生命倫理用語の充実
- ④ 膜輸送蛋白質、酵素など、生体機能蛋白質の用語が充実
- ⑤ 遺伝学関連のカテゴリが新設
- ⑥ 歴史的イベント、戦争名が追加

以上が、今回の改訂で対応した事項でありました。このうち、最も作業に時間を要したのは、植物名の対応で、医学中央雑誌シソーラスでは、多くの植物名がフリーキーワードとして、扱わ



れていたため、MeSH で新設された植物名との付け合せが、非常に困難でありました。また、生命倫理の用語も、これらに関する辞書などが少ないことから、訳語の選択に苦勞する場面が多々、ありました。一方、歴史的事件、戦争名の語は、今回、追加しませんでした。例として、”September 11 Terrorist Attack” (アメリカ同時多発テロ)、などは、日本の医学文献の検索には、必要度が低いと判断しました。

新規に追加されたものとして、地名が採用されました。MeSH の Z カテゴリにあたる用語で、世界の国名、日本の都道府県名、政令指定都市名が追加され、疫学的な要素へも対応できるよう配慮されました。

(図 14)

MeSH2005対応

発行年	新設語	変更語	削除語
2002年	847	185	47
2003年	1251	93	20
2004年	666	109	71
2005年	487	129	60
合計	3251	516	198

(図 15)

MeSH2002-05新設語

	A	B	C	D	E	F	G
第5版	1,381	1,713	4,116	8,450	2,117	819	1,843
新設	100	1,709	243	1030	179	50	205
	1,481	3,422	4,359	9,480	2,296	869	2,048
H	I	J	K	L	M	N	総用語数
416	421	293	113	335	170	1,049	21,378
40	40	40	62	36	21	60	3,251
456	461	333	175	371	191	1,109	24,629

※MeSH2005のヒストリー項目の登録年が2002-2005のものもカテゴリ別にディスクリプタ数を算出した。総用語数はカテゴリ別の語数をすべて加算したディスクリプタ数のため、カテゴリ別語数の合計とは異なる。

その他には、UMLS (Unified Medical Language System) 対応があります。医学中央雑誌のシソーラス語は、2004年から、UMLSにMeSHのJapanese Translationとして提供されております。今後、MeSHがどのように進むかにありますが、今までのようなDescriptor CentralからConcept Centralになる場合に対応できるよう、検討しております。実際問題として、MeSHではあるディスクリプタの同義であっても、Conceptという観点から見ると、全く別物となる場合が、多々、存在しております。

(図 16)

MeSHのEntry Term(同義語扱い)のうち  
UMLSのCUIが異なるもの

Ocular Motility Disorders 眼球運動障害  
DUED015835

Brown Tendon Sheath Syndrome 腱鞘症候群 C0155339  
ICD-9-CM5SNOMED-CT Read Codes

Cyclophoria 回転斜位 C0152219  
ICD-9-CM5SNOMED-CT Read Codes

Opsoclonus 眼球クローヌス CUI:C0242567  
SNOMED-CT Read Codes

Parinaud's Syndrome パリノー症候群 C0152222  
SNOMED-CT Read Codes  
(訳語はステッドマンによる)

UMLS への医学中央雑誌シソーラスの提供は、本研究班の研究内容を NLM にて、館長、Dr. Lindberg、副館長、Ms. Humphreys、MeSH 部門のチーフである、Dr. Nelson に日本の医学会用語集と UMLS の対応がどのようなものであるかを、紹介したことに端を発している。その後、医学中央雑誌刊行会用語委員会委員長である野添先生に Dr. Nelson から、日本語の MeSH を提供できないかと打診があり、コンピュータ上でデータ処理でき得るものをテストデータとして送り、その後、何度かやりとりがあり、実現した次第です。Dr. Nelson の将来の構想に漢字圏の地域、国にも PubMed 検索を容易にするものを提供したいという構想があり、用語委員長でもある野添先生のお力添えがあって実現したものであります。また、当時、研究班の主任研究者であった脊山先生、現主任研究者の開原先生、コンピュータ及びデータベース構築の面から、多大なアドバイスを頂いた小野木先生に心から、感謝するものであります。

(8) 第6版シソーラス改訂における問題点

一部を紹介します。

#### 1) “Colorectal Neoplasms” と大腸腫瘍

第5版シソーラスを作成する際、MeSHの“Colorectal Neoplasms”を「大腸腫瘍」として登録しました。日本の文献では「直腸結腸腫瘍(癌)」ではなく「大腸腫瘍(癌)」と表現されることが圧倒的に多いという実状を重く見てこのように登録したのですが、その結果、カテゴリー上、「大腸腫瘍」の下位に位置付けられるべき「盲腸腫瘍」が「大腸腫瘍」と並列になってしまう、という問題が生じていました。この問題を解決するために「大腸腫瘍」ではなく「直腸結腸腫瘍」を採用すべきなのか?との検討を重ねる中で、「大腸がん取扱い規約」で盲腸に発生した癌も大腸癌に含めていることから、第5版と同じく「大腸腫瘍」を採用し、「盲腸腫瘍」を「大腸腫瘍」の下位に位置付けることとしました。

これは、MeSHと異なる例です。

#### 2) 疫学用語とカテゴリーの見直し

シソーラス第5版では、疫学分野のMeSH用語“Clinical Controlled Trial”を、そのまま「比較臨床試験」としていましたが、実際のインデクシングにおいては「準ランダム化比較試験」に対してこの「比較臨床試験」を索引している、という実態がありました。そこで、シソーラス第6版では、この実態に合わせて、“Clinical Controlled Trial”は「準ランダム化比較試験」とすることとしました。また「準ランダム化比較試験」「ランダム化比較試験」のカテゴリー上の位置関係は、上下ではなく並列なので、そのように変更しました。なお、このシソーラス語の変更に伴い、2007年から、研究デザインタグ「比較臨床試験」も「準ランダム化比較試験」に変更されました。さらに、専門の先生方のアドバイスで、「前向き研究」、「後向き研究」、「多施設共同研究」カテゴリーについて検討し、MeSHとは、多少異なるカテゴリーを構築しました。

#### 3) 副標目

2001年より使用してきた36個の副標目について、見直しを行いました。その結果、「異常」「悪性」を廃止すること、及び、物質の欠乏や減少に対して、1983から1995年まで、使用していた「欠損・欠乏症」を「欠損・欠乏」と表記を改めて復活させます。この変更に伴い、1983から1995年に使われた「欠損症・欠乏症」、1996から2000年に使われた「欠乏症」をすべて「欠損・欠乏」に置換する予定です。さらに、物質の欠乏や減少を表す副標目が無かった2001から2006年については、順次メンテナンスを行い、必要な文献に「欠損・欠乏」を付与し、最終的には、全年度のデータにおいて、「欠損・欠乏」による絞り込み検索が行えるようにしたいと考えています。

#### 4) チェックタグ

「植物」「鳥類」「in vitro」を廃止。また、「妊婦」を「妊娠」に表記変更し、ヒトだけでなく、動物にも使用できるようにした。

### 3. 2. 3 結び

初版から、つい先ごろ、改定された、第6版シソーラスまでの変遷を述べさせて頂きました。研究班でお世話になった先生方のお力添えもあり、何とか、ここまで来ることができました。この研究班で、検討して来たことは、他の分野でも、役に立っております。UNLSへのデータ提供だけに留まらず、WHO西太平洋地区における、Traditional Medicineの中国、韓国、日本の伝統医学用MeSHの作成などにも、携われるようになりました。中でも、その最たるものは、日本医学学会が発行する、医学用語辞典英和版の改訂作業に携わらせて頂けるようになりました。同義語の選択、Conceptに従ってグリーン化するなど、これらの作業を私どもの医中誌Webを使って頂いている側の先生方から、意見を伺えたことは今後、非常に参考になることばかりでありました。

中国中医科学院のFan先生が仰っていた、「エキスパートの先生方と情報を伝える側とのコラボレーションなくしては、いい文献情報をつくることはできない」という言葉の意味がようやく、わかりはじめたところであります。

当会の専務理事でありました故宮野昌明が生前、「インターネットの急激な普及は、何時でも、

何処でも、誰でも、必要な情報を直ちに入手できる環境となった。一方においては、文部科学省が進めている「ライフサイエンス統合データベース」整備に見られるように、現在、各所に散在しており、有効活用されているとは言い難い。多種多様なデータベースを統合し、最新の研究をサポートするには医学中央雑誌刊行会もEBM、診療ガイドラインの紹介等に限らず、引き続き充実をはかり、医療関係者ならびに患者、一般国民が求めている情報を素早く伝えていかなければならない。その際、用語は重要なものになる」と常々、申しておりました。米国だけに限らず、あらゆるBiomedicalの分野で、データベースの橋渡しとなるべく、より一層、医学用語シソーラスの作成に取り組んでまいります。

### 3. 3 日本医学会の医学用語に関する活動

#### 3. 3. 1 はじめに

日本医学会は、現在101の専門的な医学学術団体から構成される組織で、多くの活動を行っているが、その一つに医学用語に関する活動がある。

その活動は、日本医学会が医学用語管理委員会を組織して行っている辞典の編纂と、各分科会が行っている専門領域での医学用語集の編纂がある。学会が用語に関する活動を重視してきたのは、医学用語は診療・医学教育・医学研究の根幹を成す言語であるからである。

歴史的には江戸末期のオランダ語の翻訳に始まり、明治になってからはドイツ語、さらには英語を日本語に置き換えるということから築かれてきた。また医者仲間で通用する専門用語であるという性格から、医学用語は一般の人に通じる言葉というよりも、むしろ現在では26万人に達した医師相互のコミュニケーションの道具として100年以上にわたって培われてきたものである。しかも日本医学会は現在101の分科会から構成され、その67の分科会が独自の用語集を持っているが、これらの多くは分野内で使われてきた用語を集めたものである。

その用語集の間で統一をはかるといふ試みは日本医学会医学用語管理委員会の「日本医学会医学用語辞典英和」(第2版)<sup>(1)</sup>から始まったが、各分科会の調整が本格的に行われたのは、次に述べる第3版<sup>(2)</sup>からである。

最近では、医学用語は、それぞれの専門領域を超えて使われるようになってきている。英語の教科書を翻訳するというような教育の場でも、学会誌の原稿執筆という研究の場でも、また診療の場でも、色々な用語が使われたのでは多くの不都合が起こる。

更には一般社会でも一部の医学用語が広く使われるようになってきているから、医学用語を統一したという声が強くなってきたのも当然のことであろう。

ここでは、こうした活動を述べるが、日本医学会の活動は、各分科会の活動のいわば集大成であるので、ここではまず、分科会における活動から述べ、その後、日本医学会医学用語管理委員会の活動を述べることにしたい。

#### 3. 3. 2 日本医学会分科会における用語管理

##### (1) 日本医学会の分科会における用語辞典の状況

日本医学会は101の分科会から構成されているが、各分科会には用語委員会を持っていて、それぞれの分野に特有な専門用語をはじめ関連用語の管理に関する活動をしている。平成17年の段階で68の分科会が独自の用語集の刊行を行っている(表1)。日本寄生虫学会、日本外科学会や日本産婦人科学会、日本公衆衛生学会、日本化学療法学会、日本小児外科学会、日本人工臓器学会、のように複数の用語集を出版している学会もある。また、1982年に出版されて以来改訂されていない用語集もある。

##### (2) 分科会の用語集作成の一例：「生化学用語辞典 英和・和英」編集の軌跡

英文教科書の翻訳が盛んになるにつれて和訳用語の統一が叫ばれるようになってきたが、その一例として日本生化学会が行ってきた用語管理への取り組みを紹介したい。

日本生化学会は10,549人(2006.11.17現在)の会員を抱え、その約20%が医学系の会員からなっている。学会として月刊の英文誌「Journal of Biochemistry」、と和文誌「生化学」を刊行していて、用語委員会では生体内にある物質、酵素から遺伝子はもとより生命現象に関わる様々な用語に関して英語と日本語の両面から対応付けをするという編集作業が行われてきた。和文誌には総説とミニレビューが掲載されているが、英語は同じ用語でありながら、日本語で訳す際に著者によってローマ字、漢字、カタカナ、ひらがな、等が混在しており、一つの論文の中に二通りの表現が存在するというような極端な例もあって、読者はもとより編集に当たる者にとっても頭の痛い問題であった。1980年代に学会として英文和訳の標準用語集の制定が望まれたのはこのような事情を背景に